

介護保険

会計区分		06	介護保険		令和 3 年 度 事 務 事 業 調 書							事業主体		04010000	福祉課・地域包括支援センター	
大 事 業 C D	22	(目標)	—				中事業 C D	01	(施策)	—						
		(政策)	—						(主要な取り組み)	—						
小 事 業 C D	01	通所型介護予防事業					事業年度	R03 ～ R12		成果目標	☐ 成果目標がある		成果指標	—		
款項目	03	地域支援事業費	01	介護予防事業費	01	介護予防事業費	小事業区分	新規・継続			☒ 成果目標がない	目標値	—	目標年度	—	

(単位：千円)

	R O 3 年 度 予算要求額	当 該 年 度 の 事 業 詳 細 等	前年度(02年度) 当初予算額	31年度 決算額
○ 経 費 計	1,644	総合事業通所型サービスA「いきがいデイサービス」は、令和2年度から受託事業所がなく実績なし。	1,453	0
1 報酬				
2 ～4給料手当等				
5 災害補償費		R3年度 参加者実績96人		
7 報償費	920	・筋力アップ8回：18人…社協委託	658	
8 旅費		・介護予防運動：30人		
9 交際費		・脳活性：5月間(20回)=26人		
10 需用費	493	・健康アップ：22人	455	
1 消耗品費	425		397	
2 燃料費	68	事業	58	
3 食糧費		＊筋力アップ教室（高齢者筋力向上トレーニング事業）：社会福祉協議会に委託し、週1回8回コースを年2回実施する。筋力		
4 印刷製本費		・体力を元気な内から維持したいという自立の方を対象とする。		
5 光熱水費				
6 修繕料				
その他		＊介護予防運動教室（運動・口腔機能向上・認知症予防）はH28年度から開催。継続参加者年々増加し、生活活性化につながっている。町内在住の介護予防運動指導員・中高老年期運動指導士へ講師依頼を継続する。		
11 役務費	5		5	
12 委託料	226		335	
13 使賃料		＊脳活性化「脳の健康教室」…H26年度から開始し好評。		
14 工事請負費		週1回全20回の教室を年2回実施する。サポーターや参加者同士の交流が活力になっている様子。		
15 原材料費		＊R2年度まで実施していた転倒予防教室（非マシン運動機能向上事業）を通年で継続してフレイル予防を実施する。		
16 公財購				
17 備品購入費				
18 負補交				
19 扶助費				
20 貸付金		【主要施策 2301】昨年度に引き続きコロナ禍での教室開催となった。介護予防運動教室に関しては密を避けるために会場を2つに分け、モニターを通して講師の姿がみえるよう工夫して行った。そのため参加人数も通常の人数に戻り、規模を縮小することなく開催することができた。また、転倒予防教室に代わり、筋力アップ教室のフォローとして、筋トレフォロ教室と隔週で『健康アップ塾』と称した虚弱高齢者を対象とした教室を立ち上げ、運動・栄養・口腔・認知症予防という複合的なプログラムを開始した。		
21 補てん賠				
22 償利割				
23 投資出資金				
24 積立金				
25 寄附金				
26 公課費				
27 繰出金				

○ 財 源 計	1,644	基準額・補助率・歳入科目コード等	1,453	
1 国庫支出金	597		291	
2 県支出金	250	地域支援事業交付金	364	
3 町債				
4 その他特財	752	地域支援事業交付金(支払基金)、一般会計繰入金	798	
5 一般財源	45			

事業の目的（何をどのような状態にしたいのか）																																	
【★7次総 2301】（高齢者福祉）「介護予防活動の推進」																																	
高齢者が要介護状態になることを防ぐための情報取得や実践方法を習得するため教室に参加し、自らが介護予防の意識を持ってできる限り自立した生活が送れるようにする。																																	
事業の概要																																	
筋力アップ教室（高齢者筋力向上トレーニング事業）・脳の健康教室（脳活性化教室）・カミカミ教室（口腔機能向上事業）・転倒予防教室（運動器機能向上事業）を開催する。介護予防が必要な基本チェックリストによる事業対象者や要支援認定者及び、一般高齢者に各種教室を実施し、自らが意識を持って介護予防活動を実践できるように支援する。																																	
事業の実績																																	
<table><tr><td>＜目標合計人数＞</td><td>30年度91人</td><td>R元年度87人</td><td>R2年度89人</td><td>R3年度</td></tr><tr><td>・筋力アップ教室(8回)</td><td>24人</td><td>19人</td><td>12人</td><td>18人</td></tr><tr><td>・脳活性化教室</td><td>32人</td><td>33人</td><td>15人</td><td>26人</td></tr><tr><td>・転倒予防教室</td><td>22人</td><td>17人</td><td>17人</td><td>健康アップ 22人</td></tr><tr><td>・介護予防運動教室</td><td>32人</td><td>31人</td><td>28人</td><td>筋トレフォ 30人</td></tr><tr><td>＜参加者合計＞</td><td>110人</td><td>100人</td><td>72人</td><td>107人</td></tr></table>				＜目標合計人数＞	30年度91人	R元年度87人	R2年度89人	R3年度	・筋力アップ教室(8回)	24人	19人	12人	18人	・脳活性化教室	32人	33人	15人	26人	・転倒予防教室	22人	17人	17人	健康アップ 22人	・介護予防運動教室	32人	31人	28人	筋トレフォ 30人	＜参加者合計＞	110人	100人	72人	107人
＜目標合計人数＞	30年度91人	R元年度87人	R2年度89人	R3年度																													
・筋力アップ教室(8回)	24人	19人	12人	18人																													
・脳活性化教室	32人	33人	15人	26人																													
・転倒予防教室	22人	17人	17人	健康アップ 22人																													
・介護予防運動教室	32人	31人	28人	筋トレフォ 30人																													
＜参加者合計＞	110人	100人	72人	107人																													
事業の成果指標		事業の目標値																															
		単位																															
		R03 年度末																															
		R04 年度末																															
		R05 年度末																															
R03年度の到達目標(課題・改善策等)																																	
目標指標 参加者数86人（要介護認定を受けていない65歳以上R3推計値1899人(=2202-303)の5.5%104人-18人）送迎の必要な方はできるだけボランティア送迎を行う。実態調査や体力測定を元に参加動機に努める。窓口相談・広報などでPRして、教室参加を勧め自宅元気に暮せるよう介護予防を強化していく。																																	

事務事業評価の結果（1次）	—	R03年度の計画額	0 千円
事務事業評価の結果（2次）	—	R03年度の上限額	0 千円
<特記事項>			

【評価】 A拡充・重点化 B計画の承認 C見直し・縮小 D整理・統合 E休止・廃止 ー評価なし

会計区分	06	介護保険		令和 3 年 度 事 務 事 業 調 書							事業主体		04010000		福祉課・地域包括支援センター		
大事業 CD	22	(目標)		—			中事業 CD	01	(施策)		—						
		(政策)		—					(主要な取り組み)		—						
小事業 CD	04	地域介護予防活動支援事業					事業年度		R03 ～ R12		成果目標	☐ 成果目標がある		成果指標	—		
款項目	03	地域支援事業費	01	介護予防事業費	01	介護予防事業費	小事業区分	新規・継続		☒ 成果目標がない		目標値		—	目標年度	—	

(単位：千円)

	R03年度 予算要求額	当該年度の事業詳細等	前年度(02年度) 当初予算額	31年度 決算額
○ 経費 計	442	○介護予防のためのボランティア及び、生活支援ボランティアの養成・育成のための研修会を実施。	713	0
1 報酬	78	・サロンボランティア等を対象に研修会を実施する。	75	
2 ～4給料手当等		上記ボランティア研修会での学びを生かして、サロンで活躍していただけるようにしていく。		
5 災害補償費		・各地区のふれあいサロンの参加者状況を社協と連携し、介護予防につなげる。		
7 報償費	28		28	
8 旅費	3		3	
9 交際費				
10 需用費	51		51	
1 消耗品費	3	・R3年度の筋力アップフォロー教室は、主に筋力アップ20回教室修了者を対象に毎週1回、10回をワンクールで実施し、14名が参加している。	3	
2 燃料費		包括と委託先の社会福祉協議会と検討し、10回で区切るより継続で実施していくことや、フレイル予防を取り入れた方がよいという結論に達し、一般介護予防事業と合わせて対象者を抽出し、毎週、年間を通して実施していく計画とする。		
3 食糧費				
4 印刷製本費				
5 光熱水費				
6 修繕料				
その他	48		48	
11 役務費	9		9	
12 委託料	273	・R3年度の料理教室は、男性料教室とシニア料理教室に分けて開催。男性料理4回に7名、シニア料理4回に7名が参加した。	547	
13 使賃料				
14 工事請負費				
15 原材料費				
16 公財購				
17 備品購入費				
18 負補交				
19 扶助費				
20 貸付金				
21 補てん賠				
22 償利割				
23 投資出資金				
24 積立金				
25 寄附金				
26 公課費				
27 繰出金				

○ 財源 計	442	基準額・補助率・歳入科目コード等	713
1 国庫支出金	160	地域支援事業交付金	178
2 県支出金	67	地域支援事業交付金	89
3 町債			
4 その他特財	202	地域支援事業交付金(支払基金)、一般会計繰入金	282
5 一般財源	13		164

事業の目的（何をどのような状態にしたいのか）									
【★7次総 2301】（高齢者福祉）「介護予防活動の推進」									
高齢者人口の増加とともに、要介護等認定者の数も年々増加しています。高齢者が要介護状態になることを防ぎ、できる限り自立した生活が送れるよう支援する。									
事業の概要									
介護予防に関するボランティア等の研修を行うことで、地域に介護予防の意識を高め、実践できるよう支援する。地域で自主的に介護予防活動が続けられるように、介護予防のための教室実施等を行う。									
事業の実績									
実績 ・おとこの料理教室 R元年度 なし R2年度 なし R3年度 4回7人 ・サロンボランティア研修 1回 なし なし ・筋力アップフォロー教室 30回 9回 通所介護事業へ ・シニアお手軽料理教室 8回15人 4回13人 4回7人									
実績 ・ふれあいはつらつクラブ 24年度 42人 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度 R元年度 2回（実8人） 廃止									
事業の成果指標					事業の目標値				
					単位				
					R03 年度末				
					R04 年度末				
					R05 年度末				
R03年度の到達目標(課題・改善策等)									
R3年度の料理教室は、前半4回を男の料理、後半4回をお手軽料理教室で予定人数は延べ24名。手軽にバランスのとれた料理実習の目的だけではなく一緒に食事を摂る共食も目的として実施。 筋力アップフォロー教室は月2回のコースで40回計画し、継続していけるように、他の月2回は一般介護予防事業の健康教室へも参加していただくように計画する。フォローアップの卒業基準を検討していく。									

事務事業評価の結果(1次)	—	R03年度の計画額	0	千円
事務事業評価の結果(2次)	—	R03年度の上限額	0	千円
<特記事項>				
コロナ禍においては、気軽に外出したり、複数人集まる教室やふれあいサロンへの参加人数が伸び悩む傾向にある。個別訪問では限界があり、今後も人の集まる機会を見つけて情報提供していきたい。ボランティア育成もコロナの影響が落ち着いたらできるように計画していきたい。				
【評価】 A拡充・重点化 B計画の承認 C見直し・縮小 D整理・統合 E休止・廃止 一評価なし				

会計区分	06	介護保険	令和 3 年度 事務事業 調書					事業主体	04010000	福祉課・地域包括支援センター		
大 事 業 C D	22	(目標)	-					中 事 業 C D	02	(施策)	-	
		(政策)								(主要な取り組み)		
小 事 業 C D	03	包括的支援事業			事業年度	R03 ～ R12		成果目標	☒ 成果目標がある	成果指標	地域ケア会議開催数	
款 目	03	地域支援事業費	02	包括的支援事業・任意	01	包括的支援事業・任意	小事業区分	新規・継続	☐ 成果目標がない	目標値	10	目標年度 令和 2年度

(単位：千円)

	R 0 3 年度 予算要求額	当 該 年 度 の 事 業 詳 細 等	前年度(02年度) 当初予算額	31年度 決算額
○ 経 費 計	19,690	【主要施策2302】日々の総合相談の件数、予防給付の支援件数が増加しているため、それに関わる地域包括支援センターへの相談支援の件数も増えてきています。	24,028	0
1 報酬	64	令和3年度も昨年度同様に、コロナによる人との接触が制限される中、地域課題の把握をすることへの難しさを痛感しています。	2,798	201
2 ～4給料手当等		そのことから、今後は、地域ケア会議の開催を増やし、地域課題の把握をするとともに、社協の生活支援コーディネーターやコミュニティソーシャルワーカー等とのネットワークを活かした包括的な事業を推進していきます。		49
5 災害補償費				69
7 報償費	49			
8 旅費	20			
9 交際費				
10 需用費	452		233	
1 消耗品費	170		49	
2 燃料費	282		184	
3 食糧費		【主要施策2305】R3年度、認知症地域支援推進員は包括職員1名が兼務しました。認知症の相談件数も増加してきているので、今後も、認知症サポーター養成講座、行方不明高齢者等探索模擬訓練、認知症講演会を継続し認知症やその対応についての知識の普及を進め、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりをしていきます。		
4 印刷製本費				251
5 光熱水費			6,226	
6 修繕料			538	
その他				
11 役務費	258			
12 委託料	3,794			
13 使賃料	542	【主要施策2306】美濃加茂市及び加茂郡町村で加茂地域連絡協議会を設置し、加茂医師会と連携しながら介護と医療が切れ目なく提供できるよう計画しています。R3年度はコロナ禍であったため、リモートでの会議や研修会、映画会の開催となりました。映画会では、これまで参加の少なかった若い世代にも観ていただくことができ、関心を持っていただけたのではないかと評価しています。	13,663	
14 工事請負費		次年度からは、運営方法が変わり、町村でも会議、研修会、映画会等を役割分担して運営していくこととなります。		
15 原材料費				
16 公財購				
17 備品購入費				
18 負補交	14,511			
19 扶助費				
20 貸付金				
21 補てん賠				
22 償利割				
23 投資出資金				
24 積立金				
25 寄附金				
26 公課費				
27 繰出金				

○ 財 源 計	19,690	基準額・補助率・歳入科目コード等	24,028
1 国庫支出金	7,162	地域支援事業交付金	9,715
2 県支出金	2,991	地域支援事業交付金	4,417
3 町債			
4 その他特財	2,991	一般会計繰入金	5,370
5 一般財源	6,546		4,526

事業の目的（何をどのような状態にしたいのか）			
【★7次総 2302】（高齢者福祉）「地域包括支援センターの機能強化」 【★7次総 2305】（高齢者福祉）「認知症対策の推進」 【★7次総 2306】（高齢者福祉）「医療と介護の連携強化」			
高齢者の総合相談窓口としての機能を充実し、高齢者の介護予防の推進や要支援・要介護者のサービス調整等、個々の高齢者の状況や変化に合わせて、包括的・継続的な支援をする。			
事業の概要			
高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、高齢者の総合相談窓口を充実し、実態把握・介護予防ケアマネジメント・地域のネットワーク構築・介護支援専門員への助言指導を行う。			
○認知症地域支援推進員継続配置 ○初期集中支援チームの設置・運営 ○生活支援コーディネーターは坂祝町社会福祉協議会へ業務としてH28年度から委託。 協議体を支え合い団体の単位で課題を把握し、住民主体のサービスなどの資源開発の強化に努めていく。 ○総合相談を包括職員全員で実施 ○実態把握の訪問・相談をして、地域ケア会議を行い、対象者に必要なケアマネジメントを行う。 ○在宅医療介護連携は、加茂地域の市町村及び加茂医師会と連携し、通称「かもまるネット」で事業を推進していく。			
事業の実績			
R3年度 総相談件数 3,228件 ・相談内容 介護、日常生活1,473件 実態把握25件 権利擁護6件 サービス利用779件 予防給付609件 高齢者虐待3件 医療262件 行事業内5件 その他29件 家庭生活28件 苦情相談1件 C M相談8件 R2年度 総相談件数 2,127件 ・相談内容 介護、日常生活838件 実態把握82件 権利擁護12件 サービス利用544件 予防給付385件 高齢者虐待1件 医療173件 行事業内5件 その他67件 家庭生活54件 苦情相談2件 C M相談7件 R元年度 総相談件数 1,729件 ・相談内容 介護、日常生活514件 実態把握38件 権利擁護10件 サービス利用362件 予防給付410件			
事業の成果指標		事業の目標値	
情報提供者からの情報などから事前に打ち合わせし、課題・論点の整理や専門職の参加検討などを踏まえた会議の実施回数		単位	回
		R03 年度末	8
		R04 年度末	8
		R05 年度末	8
R03年度の到達目標(課題・改善策等)			
総合相談、家庭訪問での相談内容から、住み慣れた自宅でできるだけ長く生活できるよう支援体制を整える。 介護予防として住民が参加して支え合いができる仕組みづくりをしていく。 包括職員が適切に、介護予防支援事業のケアマネジメントを実施できるよう、研修に積極的に参加する。			

事務事業評価の結果（1次）	－	R03年度の計画額	0 千円
事務事業評価の結果（2次）	－	R03年度の上限額	0 千円
<特記事項>			

【評価】 A拡充・重点化 B計画の承認 C見直し・縮小 D整理・統合 E休止・廃止 一評価なし

会計区分	06	介護保険		令和 3 年 度 事 務 事 業 調 書							事業主体	04010000	福祉課・介護保険係		
大事業 C D	22	(目標)	—					中事業 C D	03	(施策)	—				
		(政策)	—							(主要な取り組み)	—				
小事業 C D	02	介護認定調査事業					事業年度	R03 ～ R12	成果目標	☐ 成果目標がある	成果指標	—			
款項目	01	総務費	03	介護認定審査会費	02	認定調査費	小事業区分	新規・継続		☒ 成果目標がない	目標値	—		目標年度	—

(単位：千円)				
	R O 3 年度 予算要求額	当 該 年 度 の 事 業 詳 細 等	前年度(02年度) 当初予算額	31年度 決算額
○ 経 費 計	1,479		1,514	0
1 報酬				
2 ～4給料手当等				
5 災害補償費				
7 報償費				
8 旅費	2		2	
9 交際費				
10 需用費			35	
1 消耗品費				
2 燃料費				
3 食糧費				
4 印刷製本費			35	
5 光熱水費				
6 修繕料				
その他				
11 役務費	1,459		1,459	
12 委託料	15		15	
13 使賃料	3		3	
14 工事請負費				
15 原材料費				
16 公財購				
17 備品購入費				
18 負補交				
19 扶助費				
20 貸付金				
21 補てん賠				
22 償利割				
23 投資出資金				
24 積立金				
25 寄附金				
26 公課費				
27 繰出金				

○ 財 源 計	1,479	基準額・補助率・歳入科目コード等	1,514	
1 国庫支出金				
2 県支出金			189	
3 町債				
4 その他特財	1,479	一般会計繰入金	1,325	
5 一般財源				

事業の目的（何をどのような状態にしたいのか）		
【★7次総 2303】（高齢者福祉）「要介護（要支援）者の把握、認定調査の実施」		
介護保険サービスを利用するために、対象者の状態を調査し介護保険サービス利用につなげる。		
事業の概要		
支援が必要と思われる高齢者やその家族に対して、介護サービスの提供について提案し、必要に応じて介護認定調査を実施する。		
事業の実績		
R 3 年度 意見書作成手数料 261件 R 2 年度 意見書作成手数料 232件 R 元年度 意見書作成手数料 283件 H 30 年度 意見書作成手数料 155件		
事業の成果指標		事業の目標値
		単位
		R03 年度末
		R04 年度末
		R05 年度末
R03 年度の到達目標（課題・改善策等）		
認定調査員が1人のため、統一的な視点で調査が出来る反面、他市町村との格差が生じる恐れがある。介護認定審査会での研修実施が出来るよう働きかけをしていきたい。		

事務事業評価の結果（1 次）	—	R03 年度の計画額	0 千円
事務事業評価の結果（2 次）	—	R03 年度の上限額	0 千円
<特記事項> 主に地域包括支援センターとの情報共有や連携をして、円滑に対応していきます。			

【評価】 A 拡充・重点化 B 計画の承認 C 見直し・縮小 D 整理・統合 E 休止・廃止 — 評価なし

会計区分	06	介護保険				令和 3 年 度 事 務 事 業 調 書				事業主体	04010000	福祉課・地域包括支援センター	
大事業 C D	22	(目標)	—				中事業 C D	07	(施策)	—			
		(政策)	—						(主要な取り組み)	—			
小事業 C D	01	家族介護支援事業				事業年度	R03 ～ R12		☐ 成果目標がある ☒ 成果目標がない	成果指標	—		
款項目	03	地域支援事業費	02	包括の支援事業・任意	01	包括の支援事業・任意	小事業区分	新規・継続		目標値	—	目標年度	—

		(単位：千円)	
	R 0 3年度 予算要求額	当 該 年 度 の 事 業 詳 細 等	前年度(02年度) 当初予算額
○ 経費 計	151	介護者の集い 年6回開催	137
1 報酬		講演会・映画会を開催（高齢者の権利擁護啓発、認知症啓発）	0
2 〜4給料手当等		認知症サポーター養成事業 中学1年生・一般住民等	
5 災害補償費		オレンジカフェを開催（介護者の集いで開催）	
7 報償費	71		70
8 旅費			
9 交際費			
10 需用費	31		18
1 消耗品費	13		
2 燃料費			
3 食糧費	18		18
4 印刷製本費			
5 光熱水費			
6 修繕料			
その他			
11 役務費	1		1
12 委託料	15		15
13 使賃料	33		33
14 工事請負費			
15 原材料費			
16 公財購			
17 備品購入費			
18 負補交			
19 扶助費			
20 貸付金			
21 補てん賠			
22 償利割			
23 投資出資金			
24 積立金			
25 寄附金			
26 公課費			
27 繰出金			

○ 財源 計	151	基準額・補助率・歳入科目コード等	137
1 国庫支出金	56	地域支援事業交付金	52
2 県支出金	23	地域支援事業交付金	
3 町債			
4 その他特財	23	一般会計繰入金	85
5 一般財源	49		

事業の目的（何をどのような状態にしたいのか）																																																															
【★7次総 2305】（高齢者福祉）「認知症対策の推進」																																																															
認知症を理解し、認知症高齢者やその家族を見守り支援する認知症サポーターを養成し、活動を促進する。																																																															
事業の概要																																																															
認知症を地域に知ってもらうため、キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座を、各種団体や組織を対象に、年数回開催する。 認知症サポーター受講者でその後のボランティア意欲のある方を、チームオレンジの活動へつなぐ チームオレンジの研修を企画する																																																															
事業の実績																																																															
<table><tr><td><実施行事></td><td></td><td>28年度実績</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>31年度</td><td>R2年度</td><td>R3年度</td></tr><tr><td>・サポーター養成講座</td><td>参加者</td><td>50+66人/4回</td><td>58+69人/4回</td><td>77人/2回</td><td>53人/2回</td><td>1回</td><td>85人/2回</td></tr><tr><td>・認知症予防啓発講演会</td><td>参加者</td><td>68人/1回</td><td>51人/1回</td><td>16人/1回</td><td>92人/1回</td><td>0回</td><td>21人/1回</td></tr><tr><td>・介護者の集い(延べ定+3)</td><td>参加者</td><td>40人(6回)</td><td>48人(6回)</td><td>36人/6回</td><td>人/6回</td><td>44人/5回</td><td>26人/3回(予</td></tr><tr><td>・介護用品支給事業</td><td></td><td>2人</td><td>1人</td><td>1人</td><td>福祉一般会計へ</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・徘徊高齢者位置情報提供サービス事業</td><td></td><td>0人</td><td>0</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td></tr><tr><td>・行方不明者探索訓練</td><td>・・・・・・令和元年度から地区別で開始・・・・・・</td><td></td><td></td><td></td><td>加茂山</td><td>一色</td><td>茶屋</td></tr></table>								<実施行事>		28年度実績	29年度	30年度	31年度	R2年度	R3年度	・サポーター養成講座	参加者	50+66人/4回	58+69人/4回	77人/2回	53人/2回	1回	85人/2回	・認知症予防啓発講演会	参加者	68人/1回	51人/1回	16人/1回	92人/1回	0回	21人/1回	・介護者の集い(延べ定+3)	参加者	40人(6回)	48人(6回)	36人/6回	人/6回	44人/5回	26人/3回(予	・介護用品支給事業		2人	1人	1人	福祉一般会計へ			・徘徊高齢者位置情報提供サービス事業		0人	0	0人	0人	0人	0人	・行方不明者探索訓練	・・・・・・令和元年度から地区別で開始・・・・・・				加茂山	一色	茶屋
<実施行事>		28年度実績	29年度	30年度	31年度	R2年度	R3年度																																																								
・サポーター養成講座	参加者	50+66人/4回	58+69人/4回	77人/2回	53人/2回	1回	85人/2回																																																								
・認知症予防啓発講演会	参加者	68人/1回	51人/1回	16人/1回	92人/1回	0回	21人/1回																																																								
・介護者の集い(延べ定+3)	参加者	40人(6回)	48人(6回)	36人/6回	人/6回	44人/5回	26人/3回(予																																																								
・介護用品支給事業		2人	1人	1人	福祉一般会計へ																																																										
・徘徊高齢者位置情報提供サービス事業		0人	0	0人	0人	0人	0人																																																								
・行方不明者探索訓練	・・・・・・令和元年度から地区別で開始・・・・・・				加茂山	一色	茶屋																																																								
事業の成果指標																																																															
				事業の目標値																																																											
				単位																																																											
				R03 年度末																																																											
				R04 年度末																																																											
				R05 年度末																																																											
R03年度の到達目標（課題・改善策等）																																																															
介護者の集いは新規参加を含め、継続参加していただけるよう声掛けをしていく。茶話会を中心に、勉強会や福祉サービスの紹介等を行い、ほっと一息つけるカフェを実施する。年6回。 認知症又は権利擁護関係の講演会や映画会の実施。年2回。その内1回は社協と合同で実施する。 認知症サポーター養成講座は中学1年生を継続、ふれあいサロン、一般住民対象の開催を継続。																																																															

事務事業評価の結果(1次)	—	R03年度の計画額	0	千円
事務事業評価の結果(2次)	—	R03年度の上限額	0	千円
＜特記事項＞ コロナ禍で予定していた認知症映画会での普及啓発ができなかったが、保健事業としての一体的実施に向けての認知症予防講演会を行った、工夫して認知症サポーター養成講座や行方不明高齢者探索訓練を実施した。今後も、より多くの方に認知症の理解をして、支援をしていただけるように事業展開していきます。				

【評価】 A拡充・重点化 B計画の承認 C見直し・縮小 D整理・統合 E休止・廃止 ー評価なし

会計区分	06	介護保険		令和 3 年 度 事 務 事 業 調 書						事業主体	04010000	福祉課・介護保険係	
大事業 C D	55	(目標)	—					中事業 C D	01	(施策)	—		
		(政策)	—							(主要な取り組み)	—		
小事業 C D	20	介護保険事業計画策定事業					事業年度	R03 ~ R12	成果目標	☐ 成果目標がある	成果指標	—	
款項目	01	総務費	01	総務管理費	01	一般管理費	小事業区分	新規・継続		☒ 成果目標がない	目標値	—	目標年度

(単位：千円)

	R O 3 年度 予算要求額	当 該 年 度 の 事 業 詳 細 等	前年度(02 年度) 当初予算額	31年度 決算額
○ 経 費 計	0	介護保険事業計画策定業務委託の実施	3,443	0
1 報酬			312	
2 〜4給料手当等		令和3年度から令和5年度までの第8期介護保険事業計画策定をし、本町を取り巻く状況や「地域共生社会」の考え方を踏まえ、継続して地域包括ケアシステムの充実を進めるとともに、高齢者自身が役割や生きがいをもって住み慣れた地域で暮らせるまちづくりに向け策定します。		
5 災害補償費				
7 報償費				
8 旅費				
9 交際費				
10 需用費				
1 消耗品費				
2 燃料費				
3 食糧費				
4 印刷製本費				
5 光熱水費		【主要施策 2307】 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、介護に関する相談や調査において、電話やリモート対応など現状に合わせた対応をしていきます。		
6 修繕料				
その他				
11 役務費			7	
12 委託料			3,124	
13 使賃料				
14 工事請負費				
15 原材料費				
16 公財購				
17 備品購入費				
18 負補交				
19 扶助費				
20 貸付金				
21 補てん賠				
22 償利割				
23 投資出資金				
24 積立金				
25 寄附金				
26 公課費				
27 繰出金				

○ 財 源 計	0	基準額・補助率・歳入科目コード等	3,443	
1 国庫支出金				
2 県支出金				
3 町債				
4 その他特財		一般会計繰入金	3,443	
5 一般財源				

事業の目的（何をどのような状態にしたいのか）			
【★7次総 2304】（高齢者福祉）「介護予防・健康づくり施策の充実・推進（地域支援事業等の効果的な実施）」 【★7次総 2307】（高齢者福祉）「災害や感染症対策に係る体制整備」 高齢者が健康で安心して暮らせるようになり、介護保険事業を安定的に運営する。			
事業の概要			
高齢者を取り巻く現状や今後の高齢化への対策をより一層推進し、高齢者が健康で安心して暮らせるよう、地域の実情に応じた高齢者福祉、介護保険の体制を計画的に確保するため計画を策定する。			
事業の実績			
事業の成果指標			
		事業の目標値	
		単位	
		R03 年度末	
		R04 年度末	
		R05 年度末	
R03 年度の到達目標（課題・改善策等）			

事務事業評価の結果（1 次）	—	R03 年度の計画額	0 千円
事務事業評価の結果（2 次）	—	R03 年度の上限額	0 千円
<特記事項> 要介護認定手続きや保険料徴収に際し、専門職やほかの事業と連携してより適切に対応できるようにします。			

【評価】 A 拡充・重点化 B 計画の承認 C 見直し・縮小 D 整理・統合 E 休止・廃止 ー 評価なし